

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時からの理念を継続し事業計画に策定に当たっても理念と一致した内容となるよう検討して進めている。計画の進捗確認においても職員間で話し合うようにしている。	法人の理念と共に、「グループホーム地利目木」の理念である「笑顔で暮らしたい」「笑いあう」が、実際の地域密着型サービスの中で、利用されるひとりひとり、喜びや笑顔に繋がっているかどうかを話し合い、理念とケアが、一致できるよう工夫し、話し合いや検討を続けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し地域行事に参加させていただいたり作品展に出品するなどの交流を継続している。	事業所は、開所15年目を迎えている。敷地内にある家庭菜園での活動を大切にし、地域の方や家族・利用者の顔なじみの方のさり気ない協力的な支援と利用者交流が生まれている。町内会行事・お祭り等にも参加し地域での役割・当番等で、交流を続けている。2年目を迎えた認知症カフェや地域の作品展へ利用者が参加しており、交流や関係性を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民に向けた体操教室などを企画して開催したり、認知症カフェの定期開催を継続しており今後も継続して地域貢献に励みたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し状況報告や意見交換を行っている。会議内容については職員にも閲覧できるよう改めた。	運営推進会議は同敷地内に開設された地域密着型特別養護老人ホームと合同で定期的開催されており、報告や検討の内容等の議事録が整理され、職員はいつでも閲覧確認出来るようにしている。	運営推進会議は定期的に行われているが、会議は限られた参加メンバーでの報告のみになりやすい現状であるので、今後は、より一層、日々の暮らしを大切に生活状況やケアの実際を理解してもらう取り組みが必要である。地域の災害対策や交流が有効的に生かされるためにも、利用者・家族・消防団等、より多くの地域の方の参加を得て、意見の交流を今後も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が中心となって開催しているオレンジカフェのボランティア活動や市の相談員の受入れなどを通じて、運営状況を確認できる状態にあり相談も可能な関係となっている。	新発田市主催のオレンジカフェ開催への参加や地域の合同認知症カフェ参加、事業所が主催する月に1回のカフェ開催などを通して、多くの関係者と意見交換することが多く、市の担当者を含め、協力や相談ができる関係が築ける機会となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議などを通じて定期的に注意喚起することで職員間で指摘しあえる環境もできてきている。身体拘束適正化指針に基づき実践している。	身体拘束をしないマニュアルがあり、研修も行われている。全体会議では身体拘束について、職員に具体的な事例を出し、考えて話し合うなど、今までの伝えるだけの研修ではなく、理解し、考えることができるような取り組みを始めている。	
7	5-2	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法に基づいて会議等で注意喚起するとともに日々のケアにおいて気づいた際にも会議等でケアについて検討している。	虐待の防止に関するマニュアルがあり、外部研修に出かけた職員による内部伝達研修が行われている。職員の休憩室には利用者への言葉使いや態度で、個別に注意することを具体的に掲示し、日々のケアで、見過ごされがちな職員への意識づけを行うことで、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関するマニュアルがあり、職員に成年後見制度について説明する機会も設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には2名で説明を行い、改定等に関しては文書及び口頭で行うことで不足のないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誕生会にお招きする時にご相談させていただきご意見を頂く機会を設けるとともに、日々の来訪時や面会時に会話などを通してお話を伺うようにしている。	家族会は現在ないとのことである。意見箱にも意見が入らない状況はあるが、面会時交流を大切にし、いろいろな話や意見をもらえるよう努めている。また、利用者の誕生会参加と、その後のカンファレンス等の時間を設定し、意見をいただいている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議の定例開催と職員らとの個人面談を実施し、職員の意見を述べる場を設けている。司会進行や面談の際に意見を述べやすくするための指導も行っている。	管理者は職員会議での意見や姿勢が、理念や目指したい事業所造りに向かいつつあると現在感じている。今回、法人で行った「ストレスチェック」で、「身体的な負担より、職員間の相互サポートの部分がうまく廻っていない」との結果が報告され、なお一層の連携とともに、職員の意見が出やすい環境づくりへの取り組みが必要と感じており、個人面談や役割等の場面で工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	組織権限に基づいて改善が必要な場合には他事業所所長らとの定例会議で検討して理事長に提案し、その結果に関しても随時反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人委員会活動や法人研修、アンガーマネジメント研修を受講するなど職場で実践できるような研修プログラムを取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新発田市主催のオレンジカフェの実行委員や合同カフェの開催、ラン伴などを通じて他法人同業者と交流する機会が多くある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人様にも見学いただけるようお願いしお話しする時間をいただいている。ケアプラン作成に当たりご家族様、ご穂人様に直接お話を伺える時間をいただいている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプラン作成時に自身や他の利用者様の体験をお話ししながらご家族様の想いやご要望を引き出すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談やお申し込みの際に本人様とご家族様のお話を伺い、必要な情報を提供できるようパンフレットなどを用いて対応させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長年入居されている方が徐々に重度化する中で支えあう意義を見失ってしまうことがあるので、事業計画として家事参加や役割づくりを継続して取り組んでいる。		
19	7-2	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族様に現況報告書及び写真を送付して生活状況が分かるようにしている。通院に際してもご家族様の意向に合わせて対応させていただくことで、協力的な関係を築けている。	家族には毎月の利用報告とともに、毎日のさり気ない様子や活動や外出時の写真等を届け、本人と家族の絆を大切にしていきたいと職員は意識している。畑へ意欲的にかかわる利用者と家族の協力、カフェ開催、協力医の月2回の往診、訪問看護は週1回、介護相談員来所など、開設15年目、この地域で築き上げてきた、利用者の安心や笑顔の基になる取り組みが、利用者や家族の安心に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	長く入居する中で面会が途絶えたり減少される方もおられるのでご家族様に相談したり、可能な方は一緒に出掛けるようにしている。	今年度、管理者はじめ職員が一番心掛けたことは「笑顔のある生活」で、敷地の中の畑づくりと外出支援である。入居13年目を迎える利用者、滞在年数の長い方やレベルの低下が見られる方もおられ、日々の安定した生活とともに、馴染みの場所や好きな所への参加や外出時には、特に表情が良く、近くの温泉の足湯や貸切温泉風呂・ブドウ狩り・外食など、多くの利用者が馴染みの場所に行くことや畑作り等で、「笑顔」に繋がるような支援を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係性の中で家事などの役割が形成されたり、居室で一緒に静養する方もおられるので支えあって生活されている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設でお亡くなりになった方が近所でお住いの場合には顔を合わせる機会があり支援させていただいている。その他の方も場合に依りて支援させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を用いて対応するとともに定期的に職員会議において意見交換を行う機会を設けている。職員間で情報を共有できる共に新たな気づきのある場となっている。	事業所ではセンター方式を取り入れており、介護計画作成者は入所1ヶ月の暫定プランを立て、その後、本プランを立てている。本人や家族の方にも意向を伺い、情報を収集し、介護計画に反映させている。モニタリングは毎月担当職員が実施しており、介護計画作成者は職員と共に、変化のあったときは、その都度見直しを行っている。	
24	9-2	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にアセスメントする他、ご家族様の来訪時にお話を伺ったり、得意なことや趣味などを把握できるようにご本人様にも伺いながら情報の把握に努めている。	担当職員は日々のかかわりの中で、気づいたことやプランの実施の状況等を毎月モニタリングシートに記入し、変化や経過を確認してサービス担当者会議で検討し、計画作成者が管理している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	モニタリングを通して、できることやしたいことを探り、ユニット担当の職員らと会議の中で情報の共有を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が月1回モニタリングを実施して介護計画に対する提案や意見を述べるができるようにしている。またご家族様を誕生会にお招きしてケアに対する意見や要望をお聞きする時間を設けさせていただいている。	センター方式を取り入れ、職員全員が日々の関わりの中で気づいたことや出来ること、できないこと等を記入している。また家族には本人の誕生会にお招きし、本人のありのままを見て頂いたり意向を伺ったりして焦点となる情報を収集し担当職員が介護計画に反映させている。モニタリングは毎月担当職員が実施、変化のあったときは都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいたことを個別ケース記録や連絡ノートに記録し、職員全員が目を通してしている。重要なことに関しては口頭で申し送りを行い情報共有を進めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様のニーズに対して、すべてを応えられない場合もあるが、可能な部分や工夫によってサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の回覧板や運営推進会議を通じて地域活動等を把握している。地域の作品展への出展も定例化してきている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回来訪する訪問看護の看護職員が主治医と直接連絡を取り情報提供したり、ご家族様の付き添いで通院支援を行う方には情報提供書もお渡しして対応している。	受診は本人・家族が希望するかかりつけ医としているが、多くは事業所の協力医を主治医としている。月2回の往診に加え看護師による訪問が週1回あり、手厚い医療・看護の支援体制が整っている。他科の受診時や入院時には協力医により紹介状や情報提供が速やかに行われるため、本人・家族・職員の安心となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来訪し健康支援を受けている。気さくに入居者様に声を掛けて会話をしてくださるので相談しやすく適切な対応に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院と情報交換を速やかに行い身体状態や状況を確認する。本人様も含めた関係者の相談の機会を持ち安心して治療ができる体制を採っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化対応と看取り介護について説明し方針wのお伝えした上でその後意思確認も行っている。心身の状態に変化があった際にも予測に説明しご意向に沿った対応を行っている。	管理者は入居時に重度化や看取りのあり方について、事業所の方針を詳しく説明し、家族の意向等確認の上、看取りの同意書ももらっている。身体状況に急激な変化があった場合でも協力医と訪問看護師の情報の共有が日常的に行われており、安心が得られるように支援が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者の状態変化に伴い、適宜指導を行うとともに訪問看護師からの指導がある。	事業所では利用者の事故発生に備え、「急変時対応マニュアル」と高齢者に想定される転倒や発熱、誤嚥などの症状による対応のフローチャートが用意されており、速やかに対応できるよう研修も実施されている。万が一の時には協力医や看護師からの協力が何時でも可能となっており、心強い連携体制が図られている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併施設設との合同訓練と事業所訓練の年2回実施している。	年間の防災計画に従い併施設設との合同訓練と事業所の年2回定期的に実施している。また避難場所や避難経路等、敷地内の建物などを地域の消防団に確認してもらっている。現在、敷地内事業所の合同訓練は行っているが、地域との協力体制については、法人と事業所で実施検討しているところである。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お部屋に入る際には一言声を掛けるようにしており、また目を合わせて会話するよう指導しておりまた実践もできている。入浴や排せつの介助に際してもプライバシーに配慮している。	事業所では人の尊厳やプライバシーについてを重要な事として重く受け止め、「プライバシーに反する行為とは…」と職員全員に宿題として問いかけている。それらを集約し、「してはいけない」事として職員休憩室に貼り出す事で注意喚起を図るなど、利用者への配慮に努めている。	マニュアルは整備されており、管理者等は法人主催の研修に参加しているが、今後は、内部伝達研修を行うことで、現場の職員が、基本的人権の保護(身体拘束禁止、虐待防止、プライバシー保護)についての継続した研修を学び、日常のケアに活かされることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人様に伺いながら選択の機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペース、体調や気分に合わせて支援するように心がけている。気分が乗らない日には延期してお気持ちを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容師に散髪を依頼し、髭剃りや爪切りは定期的に職員が確認をしている。その方が選んだ衣類を着用できるようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出しから調理にも参加していただき、食事を楽しむことができるよう取り組んでいる。季節の野菜を畑から収穫できるので旬を楽しめている。	事業所の敷地内に広い畑地があり耕作する野菜も多種に渡っており、種まきから収穫まで利用者が関わっている。広いリビングとダイニングの中心で、利用者は調理の下ごしらえから片付けまで役割分担をしながら力の発揮をする姿が今回心地よく感じられた。メニューには季節の手作り野菜が日々彩りを添えるという。また、年間を通して外食をすることも多く利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの考慮だけでなく、嚥下機能や口腔機能に応じた食事形態や飲み物を提供し、食事量が減っている方にはお好きな物を召し上げられるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立支援を考えながら毎食後に実施している。またお茶うがいが1日2回実践していただくことで認知症にも配慮している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し日中はトイレを使用したり夜間はオムツに切り替えるといったその方の状態に合わせた対応を行っている。	職員は利用者の気持ちに配慮しながら個々の排泄パターンを把握し、日中はトイレでの排泄を基本として自立に向けた支援を心がけている。誘導の難しい利用者には本人の立ち上がるタイミングでさりげなく誘導し、トイレでの排泄が可能となるなど維持改善に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ薬に頼らずに食物繊維を含んだものや乳製品を摂っていただけるようにして、水分確保のためにお好きな飲み物を問い入れて便通が良くなるよう心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回~3回で希望に応じて入浴を提供できるようにしている。同性介助や入浴の順番といったことについてもご利用者様の希望に添って対応している。	入浴は利用者の希望にできるだけ添えるように週2~3回、同性介護を基本として実施している。入浴を拒む利用者には無理強いせず誘い方に工夫を凝らし、本人の意欲を引き出しながら実施している。それでも、なお難しい利用者には足湯などで対応したり、重度の人には隣接する特養の機械浴を使用することも可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の生活パターンを把握して生活習慣に沿った臥床支援を行っている。終日臥床しがちな方に関しては、夜間の安眠に影響がでないように、日中に離床する時間を設けられるようお好きな活動を勧めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容を確認したいときにみるができるよう個人様のファイルに挟んでいる。薬剤師が薬を配達して下さるのでその際に個別の相談ができており、記録にも活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の好みに応じた活動ができるよう事業計画に盛り込んだ部分と、心身の状態に合わせたその方がしたいことをお願いするようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	足湯、ブドウ狩り、キノコ狩り、貸切風呂が可能な場所が近隣にあったので少人数で出かけるようになり大変好評である。	敷地が広いため、お天気に恵まれれば日々の散歩には事欠かない状況である。特に広い畑まで歩いて草むしりをしたり収穫したりと日常的に実施できている。また、車を利用しての遠出も季節ごとに外出支援も年ごとに増え、利用者や家族に好評を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様ご家族様と相談しながら個別に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや本人用携帯電話での取次ぎ支援も行っている。お手紙が届くと大変お喜びになるので返信支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングダイニングは9名様が過ごせるよう広くゆったりしており、中央に配した台所から調理の様子が見えるので生活感や安心感に繋がっている。	管理者は「普通の気持ち良い家」ということを基本に考えている。広い共用空間には猫たちも利用者と職員の間を何気なく行きかっていたり、壁面には季節の飾り付けや利用者の取り組んだ書や作品も所狭しと飾られ、廊下やフロアには一休みできるようにソファや椅子も多く配置されているが、狭さを感じさせない空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	猫を眺められる場所やお一人で過ごせるようなベンチを設けて、お一人お一人のお気に入り空間となるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望に応じて自由に調度品や家具を持ち込んでいただいている。居室入口にお名前を掲示したり、その方が分かる方法を工夫して実践している。	一人ひとりの居室の入り口が、さまざまな民家の玄関のように工夫した造りとなっており、利用者にとって分かりやすい入り口となっている。居室への持ち込みは自由となっており、本人の慣れ親しんだものや仏壇なども持ち込むことで各々が居心地良い居室づくりとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやお風呂、居室入口等は分かりやすい目印やカーテンを用いたり、居室はその方に合わせた移動動線となるよう家具の配置を工夫している。		